

|      |     |        |       |          |        |
|------|-----|--------|-------|----------|--------|
| 選抜制度 | 日 程 | 研究科    | 専 攻   | 科 目      |        |
| 一般   | Ⅱ 期 | 国際学研究科 | 国際学専攻 | 外国語(日本語) |        |
| 受験番号 |     | 氏 名    |       |          | 採<br>点 |
|      |     |        |       |          |        |

Ⅰ 次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。

日本は安全な国とされてきた。夜遅くなっても若い女性が出歩くことができるし、人々が多く集まっている交通機関においても、財布をポケットに入れたままでも盗られたりすることはほとんどない。財布をどこかに置き忘れても、後に戻ってくる確率も高い。銃規制が厳しいだけに、許可を得た人やごく一部の反社会的組織に属する人を除いて、銃を自宅に保有していない。人口の少ない地方の市町村では、家で鍵をかけないところもある。

図4-6は法務省の統計による犯罪件数と検挙数、検挙率を、約30年にわたって示したものである。犯罪の種類はそれこそ多岐にわたる。もっとも残酷な殺人をはじめ、傷害、窃盗、性犯罪、放火、詐欺、経済犯罪など、人間生活に関係するあらゆる領域にわたるし、犯罪の深刻さも異なるが、ここでは総数のみに注目する。

1989（平成元）年では犯罪件数は年間170万件ほどの水準であった。その後21世紀に入った頃から犯罪件数は急激に増加し、2002（平成14）年には、最多の280万件ほどまでに達した。じつに1.6倍という激増であった。その最大の要因は、バブル期（1980年代後期）を終えて日本経済が大不況期に達したことで密接に関係がある。すなわち、不況による失業者の増加、低所得者の増加に代表されるように、人々の経済生活の不安定感が高まった時期である。しかも高所得者と貧困者の増加という格差社会の進行も影響した。

大都会ではいたるところでホームレスの数が増え、定職を持たない若者がネットカフェなどに住みつくようになった。数は少なくとも、生活困窮の一部の人々が犯罪に走るようになるのに不思議はない。さらに高所得の人々がめだつだけに、それらの人に嫉妬したり、社会の不正義を倒すという口実で、高所得者を襲う犯罪が発生する。

世界を見渡すと、所得格差の大きい国々（代表的な国としてアメリカ、ブラジル、南アフリカなど）で犯罪率が高いのはよく知られている。失業者が多くて、貧困率の高い国々も同様に犯罪率は高い。日本も経済不況の中にあり、しかも貧困者の増加した時期に、犯罪率が高くなった。

もう一つの重要な要因は、家族の絆の崩壊が進んだのがこの時期である。借金を背負って離婚に追い込まれた家族や、父親が自殺してしまうといった例が報道された。もし家族の中で犯罪に走りそうな人がいても、それを家族で止められる状況にないことも多かった。さらに今までは家族の対応に任せていたので、社会的にそれを阻止するようなセーフティネットの弱いことも、犯罪率上昇の要因であった。（橘木俊詔『日本の構造』）

【設問 1】 この文章を400字以内で要約しなさい。

【設問 2】 この文章に対するあなたの意見を400字以内で書きなさい。

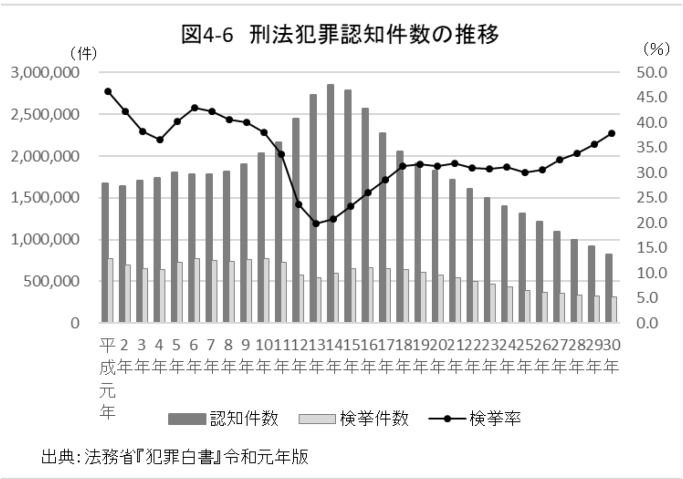


表4-10 世界の殺人発生率(人口10万人あたり)2017年

|         |      |      |     |
|---------|------|------|-----|
| エルサルバドル | 61.7 | アメリカ | 5.3 |
| ジャマイカ   | 56.4 | フランス | 1.3 |
| ベネズエラ   | 49.9 | イギリス | 1.2 |
| 南アフリカ   | 35.7 | ドイツ  | 1.0 |
| ブラジル    | 30.8 | 日本   | 0.2 |

出典：『国連犯罪調査統計』

|      |     |        |       |          |        |
|------|-----|--------|-------|----------|--------|
| 選抜制度 | 日 程 | 研究科    | 専 攻   | 科 目      |        |
| 一般   | Ⅱ 期 | 国際学研究科 | 国際学専攻 | 外国語(日本語) |        |
| 受験番号 |     | 氏 名    |       |          | 採<br>点 |
|      |     |        |       |          |        |

Ⅱ 次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。

日本で SNS 問題という<sup>ひぼう</sup>と、誹謗中傷やフェイクニュースが真っ先に挙げられることが多い。しかし、海外の人と話していると、「青少年が SNS 上で他人の投稿を見て自分と比較した結果、精神にネガティブな影響を受ける」ということを、実に多くの人が問題視していることに気づく。

【中略】

楽しく交流するためのサービスである SNS で、なぜこのような問題が起こるのだろうか。理由としては、「人は自身の良い面しか SNS に投稿しない」ということと、「画像・動画が加工されがちであること」の 2 点がある。SNS は生活の一部を切り取ったサービスである。多くの人は自分の生活の良いところしか投稿しないし、「素敵な生活」を投稿することで人気を得ているインフルエンサーであればなおさらである。また、SNS に投稿する際には、多くの人が画像・動画を加工している。体形を細くしたり、顔のシミを消したりと、様々な加工がなされているのだ。

未成熟であるほど、これらに気づきにくい。その結果、「こんなに素敵な生活を送っている人がいるのに、自分には何もない」「私の身体は醜いから、もっと痩せなければ」と、不安に駆られたりプレッシャーを感じたりするのである。インスタグラムは画像・動画のシェアに主眼を置く SNS なので、この傾向が強く出るのだ。

もちろん、昔から雑誌の表紙を飾るモデルの写真の多くは加工されていた。しかし、自分も含めて誰でも自由に投稿できる SNS では、利用者が対象を身近な存在と感じやすい。しかも雑誌の表紙と異なり、1 日に膨大な量の投稿を見ることができるのである。さらに、SNS のアルゴリズムという仕組みが問題を増幅させる。例えば、自分の体重に悩んでいる人が痩せる方法などの投稿を探せば探すほど、アルゴリズムはどんどん、体形に関する投稿を優先的に表示するようになる。

このような問題を受け、ノルウェーでは21年に興味深い法律が施行された。全ての SNS を対象に、広告主やインフルエンサーが写真を加工した際にはその旨を開示するよう義務付けたのだ。また英国でも、SNS のインフルエンサーが広告で、肌に関して現実とかけ離れた加工を使用することに規制がかけられた。

【中略】

企業や民間団体による自主規制・対策も広まっている。例えば ICC（国際商業会議所）は、青少年へのマーケティングコミュニケーションには特別に配慮することを基本原則とし、青少年を精神的、道徳的、身体的に傷つける可能性のある表現や視覚的な処理を行わないよう提言している。

他方、日本ではいまだにこの問題への関心は低い。22年に公開された総務省の「プラットフォームサービスに関する研究会」の報告書でも、特に触れられていない。日本における実態調査が実施されたことはほとんどなく、SNS を見て自他を比較する行為が青少年の精神にどの程度ネガティブな影響を与えているかは、不透明なのだ。

まずは実態を調査し、議論のテーブルに載せるのが大切である。インフルエンサーの影響力を利用したマーケティングの市場規模が急拡大している中で、問題が大きく表面化してしまう前に対策を検討することは有意義だ。

(朝日新聞 2023年3月10日 朝刊) 朝日新聞 承認番号：24-2667 無断転載禁止。

【設問 1】 この文章を400字以内で要約しなさい。

【設問 2】 この文章に対するあなたの意見を400字以内で書きなさい。

## No. 3

|      |     |        |       |          |        |
|------|-----|--------|-------|----------|--------|
| 選抜制度 | 日 程 | 研究科    | 専 攻   | 科 目      |        |
| 一般   | Ⅱ 期 | 国際学研究科 | 国際学専攻 | 外国語(日本語) |        |
| 受験番号 |     | 氏 名    |       |          | 採<br>点 |
|      |     |        |       |          |        |

[illegible] $(25 \times 16)$ [illegible]
$$(25 \times 16)$$

|      |     |        |       |          |        |
|------|-----|--------|-------|----------|--------|
| 選抜制度 | 日 程 | 研究科    | 専 攻   | 科 目      |        |
| 一般   | Ⅱ 期 | 国際学研究科 | 国際学専攻 | 外国語(日本語) |        |
| 受験番号 |     | 氏 名    |       |          | 採<br>点 |
|      |     |        |       |          |        |

[illegible]

(25 × 16) ◀ 400字

[illegible]

(25 × 16) ◀ 400字